

★★★ <第8回知的財産翻訳検定【和文英訳】試験>問題 ★★★

≪1級課題「電気・電子工学」≫

【解答にあたっての注意】

1. ***START***から***END***までを英訳してください。
2. 解答語数に特に制限はありません。
3. 課題文に段落番号がある場合、これを訳文に記載してください。
4. 課題に図面が添付されている場合、該当する図面を参照してください。★「課題図表の表示／非表示」リンクで表示
5. ダウンロードした問題用紙は、「書式」設定を「右端で折り返す」等の自動折り返し設定で表示することを推奨いたします。

〔問1〕

下記の【請求項1】と【請求項2】を米国出願形式のクレームとして翻訳して下さい。関連する実施例の記載と図とを課題文の後に付しますので参考にして下さい。

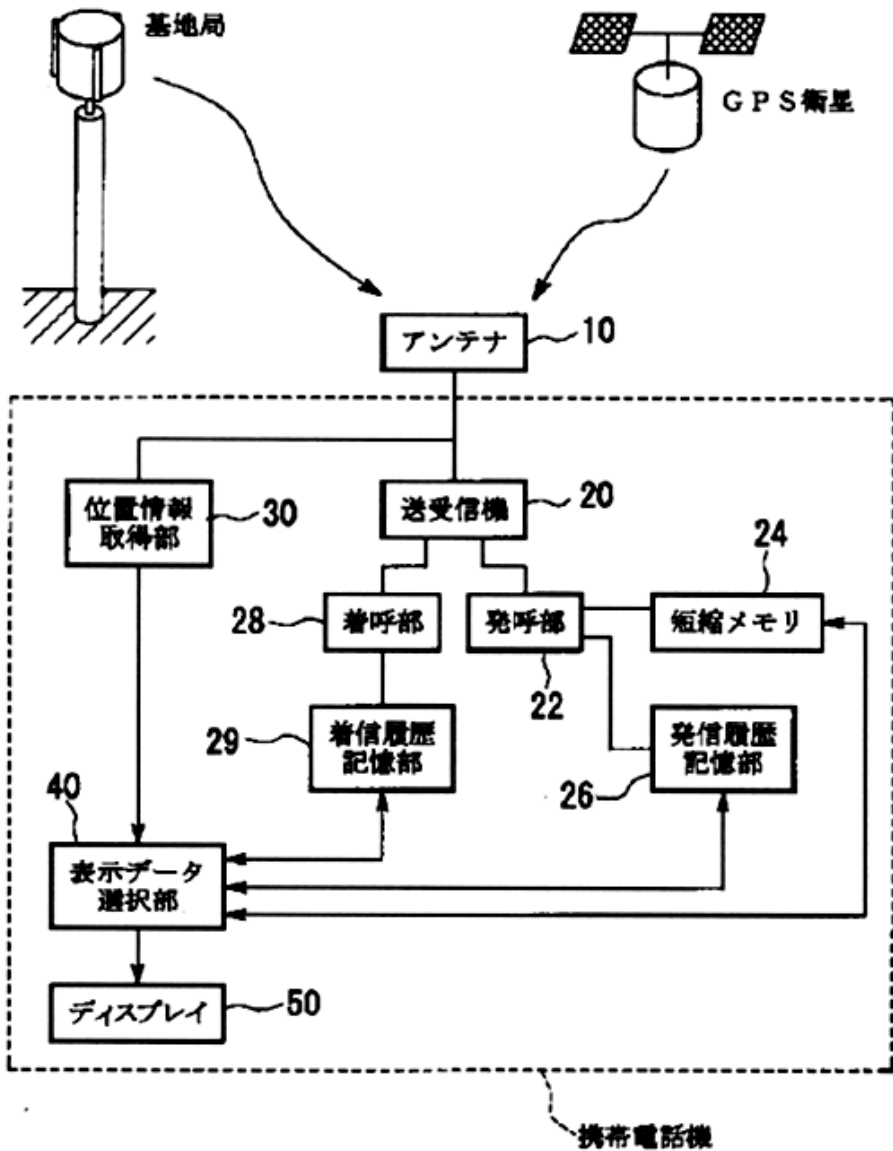
*** START ***

【請求項1】 携帯電話機の位置情報を取得する手段と、発呼する電話番号を記憶する手段と、該記憶手段に記憶された電話番号のうち、該位置情報の示す地域における電話番号を選択する表示データ選択手段と、この表示データ選択手段で選択された電話番号を表示する表示手段と、を具備することを特徴とする携帯電話機。

【請求項2】 前記位置情報取得手段は、(i) GPS衛星から送信される信号を用いて前記携帯電話機自体の位置情報を取得する手段、(ii)基地局から送信される経度・緯度情報を用いて前記携帯電話機自体の位置情報を取得する手段、(iii) 基地局から送信される位置情報を用いて前記携帯電話機自体の位置情報を取得する手段、のうち少なくとも1つの手段を有することを特徴とする請求項1に記載の携帯電話機。

*** END ***

【第1級 電子・電気工学 問1】 図1



<参考>

図1において、アンテナ10は携帯電話の基地局、低軌道衛星、静止衛星やGPS衛星からの電波を受信したり、基地局、低軌道衛星、静止衛星に対する電波の送信を行う。送受信機20は、携帯電話機に定められた周波数帯域、出力ワット数、タイムスロットでアンテナ10を介して送受信を行う。

発呼部 22 は、携帯電話機から他の電話機に発呼をする場合に必要な機能、例えば相手方電話番号の発信、音声データのデジタル化、異なる通信事業者間でのローミング機能を有している。短縮メモリ 24 は、発呼をする際の相手方電話番号の短縮番号を記憶していると共に、必要に応じて相手方の氏名又は名称が記憶されている。発信履歴記憶部 26 は、例えば 1 ヶ月程度の直近に携帯電話機から他の電話機に発呼をした相手方電話番号や通話日時を記憶している。

着呼部 28 は、他の電話機から携帯電話機に着呼する場合に必要な機能、例えば相手方電話番号の認識、送信されたデジタル音声データのアナログ化機能を有している。着信履歴記憶部 29 は、例えば 1 ヶ月程度の直近に携帯電話機に着呼をした相手方電話番号や通話日時を記憶している。

位置情報取得部 30 は、携帯電話機の現在の位置情報を取得するもので、取得する態様としては次の 3 通りが現在知られている。

- (i) GPS 衛星から送信される信号を用いて携帯電話機自体の位置情報を取得するもの；
- (ii) CDMA One のように、基地局から送信される経度・緯度情報を用いて携帯電話機自体の位置情報を取得するもの；
- (iii) IMT (International Mobile Telecommunication) 2000 システムの規約で規定されている位置情報を用いて携帯電話機自体の位置情報を取得するもの。

位置情報取得部 30 の示す地域は、例えば日本用では市町村、都道府県単位とし、米国用では市や群単位、州政府単位とし、欧州のように比較的狭い地域に多くの国家が集積している場合には、国家単位も含めると良い。電話番号には、市内電話番号のほかに、必要に応じて地域コード（市外局番）、国家コード、電話事業者コードが含まれているから、これらの情報で地域の判断が行える。

表示データ選択部 40 は、短縮メモリ 24、発信履歴記憶部 26、着信履歴記憶部 29 に記憶された電話番号から、位置情報取得部 30 に示す地域における電話番号を選択するものである。表示データ選択部 40 で電話番号を表示する優先順位は、位置情報の示す地域を第 1 順位とし、位置情報の示す地域に対して地理的に隣接する地域、若しくは時間的に直近に通話した地域を第 2 順位としてよい。ディスプレイ 50 は、携帯電話機に設けられた液晶パネル等の表示装置で、通常の携帯電話機で表示される現在の通話先電話番号や電子メールに対応している機種では文字情報が表示されると共に、表示データ選択部 40 で選択された電話番号を表示する。

〔問 2〕

次は背景技術に係わる文章です。米国出願形式の英文明細書における背景技術の文章として翻訳して下さい。

*** START ***

太陽電池利用の照明装置では、その原理上利用に比例して発生する費用は極めて少なく費用のほとんどは最初の設置費用が占め、大きな照明能力を得るために大容量の太陽電池や蓄電池を使用すると設備費用が割高となるので、一旦設置した装置の能力をできるだけ多く活用することが望まれる。一方、照明装置の機能の面からは、停電がなく、必要な時にはいつでも点灯できることも重要であり、この場合には大きな照明能力はそれほど要求されず最低限の能力があれば一般に許容されるので、この点では大容量の太陽電池や蓄電池では能力が余ることになって設備費用がかなり無駄になる。

なお、蓄電池の残存容量に応じて点灯時間を設定することにより蓄電池の過放電を防止することが提案されているが(例えば実開昭12-345678号公報参照)、これは単に点灯時間を加減するだけであり、停電がなく、必要な時にはいつでも点灯できるという機能はなく、照明装置として不十分なものである。

*** END ***

[問3]

次は実施例に係わる文章です。米国出願形式の英文明細書における実施例の文章として添付の図を参照しながら翻訳して下さい。

*** START ***

図2はマイクロコンピュータ(73)によるバックライト点灯制御手続を表わしており、前記電源スイッチ(77)がオン操作されると、マイクロコンピュータ(73)内のメモリを初期化(ステップ1)した後、前記スイッチ(78)を閉じてバックライト(75a)を点灯(ステップ2)させる。次に、操作キーボード(72)の入力処理(ステップ3)が行なわれると、入力された情報が通信関係のコマンドであるか否かが判断(ステップ4)され、YESの場合はスイッチ(78)を開いて、バックライトが消灯(ステップ5)される。その後、所定の通信コマンド処理(ステップ6)が実行され、処理が終了した時点で再びバックライトが点灯される(ステップ8)。又、前記判断(ステップ4)にてNOの場合は、バックライトを点灯したままで、所定のコマンド処理(ステップ7)が実行されることになる。

この結果、電力消耗の激しい通信中は、バックライトの消灯によって節電が図られ、電池の寿命を引き伸ばすことが可能となる。尚、液晶表示部(71)への表示が必要となるのは、操作キーボード(72)の操作中、及びデータキャリア(1)からデータが読み出された後であるから、通信中にバックライトを消灯しても何ら差し支えはない。

*** END ***

【第1級 電子・電気工学 問3】 図2

